

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部経営学科・学部 4年

参加プログラム: 国立台湾大学・東京大学合同サマープログラム

派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界:銀行)

派遣先大学の概要

1945年、日本からの独立を機に、台北帝国大学から改組して設立。学生数約3万人。プログラムは公館にあるメインキャンパスと徐州路にある社会科学院キャンパスの双方で行われた。

参加した動機

英語力を向上することと、台湾を見ることを通じて、広く東アジア世界の微妙な関係や、その中での日本の位置づけについて深い洞察を得ること、さらに台湾人との交流や議論を通じて、自分の価値観の幅を広げることを目的とした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

航空券は早めにとっておいた方がよい。事前の話では「団体でまとめて取るかもしれない」という話があったので、説明会までとるのを待ってしまったが、メール等で詳細を確認しておけば良かった。短期のプログラムなので、航空券の値段がプログラム全体の費用を大きく左右する。奨学金が6万円なので、それがほとんど宿泊に消えることを考えると、航空券は絶対に早めにとって節約すべき。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人・短期滞在のため特別な手続きの必要なし。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に危険な地域でもないの、必要なし。風邪薬と胃腸薬を持参する程度。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

クレジットカードの保険に加えて、三井住友海上の海外旅行保険に加入。保険料は5130円で、傷害死亡3千万円のコース。ネットから簡単に申し込める。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特になし。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

中3で取得した英検準2級が最新の英語力の証明。会話ではきれいな文章を作ることに専心するあまり、ほとんどしゃべれないレベル。

準備は特になし。英語はとことん苦手なので、単語とリスニングだけはやっておこうと思っていたが、多忙なため手が付けられなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

8つの講義と、それに関連する事柄を学習できるフィールドワーク(以下FW)のセット。事前資料がネット上にアップされ、それを読んで講義に臨む。最終日のプレゼンテーションでは、これまで学んできたことを元にグループとしての主張をする。一つのグループは日本人3人・台湾人3人から構成され、それぞれ政治・経済・市民社会・ポピュラー文化の4トピックに分かれて発表するが、講義やFWの内容は各グループ共通。

1授業は3時間(途中休憩あり。)Q&Aセッションが長くとられており、一つの質問に対して5~10分程度、長いと20分程度とかなり丁寧に答えてもらえる。

自分は経済のグループに所属していた。FWの中で台湾指折りの金融機関である「Fubon フィナンシャルグループ」を訪問した際、現場で実際に投資を行っているディレクターの方から、これまでの台湾金融市場の歴史や対中投資の難しさ・成功要因、更には日本との協力の可能性などについて生の声をお聞きすることができ、学部の講義やゼミの中では決して味わえない「現場感覚」を得て、非常に有意義な経験となった。

②学習・研究面でのアドバイス

事前資料はしっかり読み込んでおくべきだと思った。自分はプログラム前の期間が非常に忙しく、自分のグループに関連のある講義の資料にしか目を通すことができなかった。その結果、他の講義には事前の知識がない状態で臨むことになり、内容を深く理解して積極的に質問をすることができなかった。プログラムに参加する以上、やはり「どんな内容が話されるのか」ということはしっかり理解してから講義に臨んだ方が、有意義な時間を過ごせると感じた。

③語学面での苦労・アドバイス等

予想通り語学面は苦労した。講義そのものには資料やパワーポイントのスライドがついているため理解には問題なかったが、いざQ&Aセッションに移ると自分の言いたいことを的確に表現することができず地団駄を踏むこともあった。しかし、思い切って手を挙げてみると、自分が言いよんでいる時には教授や周りの学生が助け舟を出してくれるので、後半はかなり積極的になれたかと思う。大事なのは語学力そのものよりも伝えたいという意志だ、とはよく言うが、本当にそうだなと実感した。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

台湾大側が予約してくれたホテル。1日1900NT\$。大学には近く、徒歩で行ける。コインランドリーあり。地下にカップ麺等の簡単な食料品はあるが、品数が少ないので、少し歩いて近所のスーパーマーケットで買い物をしていた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

滞在中、台風が2回上陸。特に1回目のものは強く、その日のプログラムはすべて中止になった。

交通機関はMRT(地下鉄)とバスで不自由しない。EasyCardという、日本で言うPASMOのようなものを入手しておく(コンビニ・駅等で売っています)といちいち運賃の計算をしなくていいので楽。

お金は日本円で6万円強を持参し、現地の空港の両替所で2万5千円分を両替。朝食はホテルで食べ、昼食は弁当、夕食もなんだかんだ夕食会に呼ばれたりといろいろあったので、あまりお金を使った覚えはなく、最終日にお土産を買った後に再両替をすると1万円戻ってきた。ホテル代はクレジットで支払い。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常に良い。日本とそこまで変わらない。一応、貴重品類は肌身離さず、人ごみの多いところではリュックを前に掛ける等基本的なことはしていたが、それくらいで大丈夫だと感じた。食事もそこまで変わったものは出ないので、お腹を壊すこともなかった。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券4万9千円、旅行保険5千円、ホテル7万2千円、その他現金出費1万5千円 以上、計14万1千円

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO。6万円支給。このプログラム経由で応募。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

夕方プログラムが終了するので、その後は自由に台北の町を観光したり、台湾の人が持ってきてくれたゲームと一緒に遊んだりした。1日、すべて休みの日があったので、数名で故宮博物館や九份、基隆夜市等を観光。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

台湾側でひとり、院生の方がこのプログラムのリーダーとしてスケジュールの確認やバスへの誘導、出欠確認などをやって下さった。そのおかげで、安心して各講義やFWIに臨むことができた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

メインキャンパスの会議室内では無料のWiFiが使えた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

(学習面)

本プログラム内で、私は経済について研究するグループに所属した。台湾の経済成長と商慣行に関する講義2つと、労働組合のナショナル・センター、中華経済研究センター、そして台湾資本の金融グループという3つのフィールドワークをまとめて、最終日のプレゼンテーションに臨んだ。積極的に質問をしていくうえで分かったのは、台湾企業の国際性と中国に向けた投資の重要性であった。そこで、日本人3・台湾人3、計6名のグループのリーダーとして、「日台中3国投資の重要性について論じていこう」と方針を決め、本番に臨んだ。プレゼンでは成功例と失敗例をバランスよく並べ、日台中投資の成功のカギを論じ、また最近の経済協定の話から、金融業界での協力の可能性にまで踏み込んで論じた。3名の教授からは「一部に批判的視点が欠けているところはあるものの」「一つのトピックについて踏み込んだ洞察がなされており、非常に説得力がある」という評価を得た。

(学習面以外)

プログラム全体がほぼ英語で行われるため、日常会話も基本的には英語ベース。台湾が親日国ということもあり、日本語をかなり上手に話せる人も多くいたが、自分のグループには1人、日本語が話せない人がいたので、基本的には英語で議論した。日本語では簡単に言えることであっても英語となると急にどうやっていいのかわからなくなるため、かなり苦労したが、他メンバーの助けもあってどうにか最終プレゼンまでこぎつけた。また、他のグループの台湾人とも、ボードゲームをしたり、一緒に観光をしたりして交流した。ちょうど台湾では日本で言う所の「お盆」のような時期であったこともあり、お祭りの雰囲気と一緒に感じながら、台湾の文化や自然、更には各人の持つ歴史観、特に日本による植民地支配についての印象など、さまざまなことを教えてくれた。加えて、何度か呼ばれた夕食会の中で、台湾の

食文化や上下関係のマナーなどを感じ取ることが出来た。

②参加後の予定

現在、私は外資系の商業銀行より内定を頂いている。そのため、自身の語学力を向上させることと、より充実した海外経験を積むことを目的として、このプログラムに参加した。結論としては、その両者ともに自分の予想を超えるいい経験が出来たと自負している。語学力に関してはまだまだ未熟な点が多いが、少なくとも「文法を気にしすぎて喋れなくなる」という状況からは好転したように思える。海外経験の面では、普通の旅行よりも濃密に現地の人と交流したことで、台湾という国と人について表面的ではない、より踏み込んだ理解が出来たように思える。こうした経験を通じて、もっと世界と日本をつないでいきたい、こうした人々と相互理解を深め、よりよいビジネスをしていきたい、と、自分が内定先の銀行で働く動機をより強めることが出来た。来年4月の就職を前に、今はしっかり語学力の研鑽を積んで、将来のビジネスに備えていきたいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私は大学生生活4年間の中で今回初めて、大学側で運営されている海外プログラムに参加した。これまで参加しなかった理由は「多忙さ」と「情報を集めていなかったこと」にあるが、どちらも自分の意識次第で改善できたことであったので、非常に後悔している。教授の話によれば、今回のサマープログラムのような「短期で」「アカデミックな内容だけでなく、ビジネスにもより踏み込んだ」「海外研修プログラム」を、大学内でより充実させていく方針であるそうだ。後輩の学生には是非こういう機会を利用して、普段会えない人に会い、普段聞けない話を聞き、普段はできない貴重な経験をしてほしいものだ、と切に願う。

「英語が出来ないから」と、こうしたプログラムへの参加を躊躇している人は多いと思う。かく言う私もその一人だった。しかし、こうしたプログラムに参加しないことには、伸びるものも伸びないのは事実。「出来ないけれど、行ってみよう」と思っていってみれば、確かに苦労も緊張も英語ができる人に比べれば多いが、その分経験の質も高いはず。4年間で後悔を残さないためにも、躊躇する前に、まずは軽い気持ちで応募してみたい。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
地球の歩き方 台北編

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部理科一類・学部2年

参加プログラム: 国立台湾大学・東京大学合同サマープログラム 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職

派遣先大学の概要

国立台湾大学は、1928年の日本統治時代に日本政府により設立された臺北帝國大學を前身とする。1945年中華民国が抗日戦に勝利すると共に台湾が国民党政府に引き渡され、その年の11月15日に臺北帝國大學は正式に国立台湾大学と改名された。現在11の学院、54の学系、103の研究所に加え30あまりの研究中心を擁する研究大学である。およそ33,000人の学生が通う。

参加した動機

国立台湾大学・東京大学合同サマープログラムに参加した動機として最も大きなものは、私の台湾出身の親友である。彼女を通じ台湾の文化に触れていくにつれ台湾への興味が大きくなっていき、最終的に台湾を多岐に渡る視点から学ぶことのできる本プログラムへの参加に至った。私が特に興味を持っていた分野は台湾の文化であり、台湾文化における日本の影響、そして台湾の多文化主義について学びたいと考えていた。さらに日本のビジネスパートナーとしての台湾の持つ可能性についても興味を持っており、本プログラムに参加する動機のひとつとなった。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

申し込む際には、まず最初になぜ台湾なのか、そして台湾の何を学びたいのか、また台湾についてどう考えているのかということ自分の経験を通じて書くこと良いと思います。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人ならば台湾の入国にはビザは必要ありません。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に受けませんでした。狂犬病には多少注意したほうが良いようです。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協で斡旋しているAIUの短期留学用の保険に加入しました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

参加当時教養学部2年なのでそういった手続きなどは特に必要ありませんでした。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語に関しては、英語の講義、質疑応答は問題なく行える程度のレベルでした。中国語はほとんどしゃべれません。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

折り畳み傘、現金、ノートパソコン

予習の文献は膨大な量がありましたが読めるだけ読んだほうが良いと思います。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

プログラムは講義で知識を身につけ、フィールドワークを通じてその知識を裏付ける体験をする、といったような内容でした。授業のスタイルはまず講義を聴き、その後に質疑応答やディスカッションをするといったような構成でした。印象に残っていることは、どの講義・フィールドワークにおいてもかなり踏み込んだ内容まで学び、質問できるということです。フィールドワークでは普段行けないような場所にも行くことができ、貴重な経験となりました。

② 学習・研究面でのアドバイス

台湾について学びたいという気持ちがあれば問題ないです。

③ 語学面での苦勞・アドバイス等

台湾人みんなが日本語はもちろんのこと英語を話せるわけではないので、中国語が話せると重宝します。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
プログラム中の宿泊先については指定がありました。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候は、いつ雨が降るかわからないので折り畳み傘必須です。治安も良く、バスや電車も発達しているので便利でした。お金は、クレジットカードを持っていなかったのが現金をもっていきました。かばんの中に保管していました。食事はおいしかったです。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
上にも書きましたが、治安はよいです。狂犬病に気をつけるようにとの張り紙は見かけました。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空賃 4 万 5 千程度、宿泊費 7 万程度、その他食費、交通費など 2 万程度でした。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週末は観光しました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
全て非常に素晴らしい準備をしていただき、ストレス無く学習をすることができました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
建物が古い程度で問題なかったです。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
本プログラムを通じ、文字通りあらゆる視点から台湾について学ぶことができました。1 つの国に関してここまで深く学ぶ機会には他にないと思います。またこういったプログラムが成立しうるのも、日本と非常に深い関わりを持ち、かつ日本に対し友好的である台湾だからこそだと思います。過去台湾は日本をある意味で理想として発展をしてきましたが、現在ではもはや日本と同等、あるいは日本にない多くの素晴らしい点をもった近代的国家です。経済に関して言えば、台湾は中小企業がその柔軟性を活かし中国語圏を始め世界にビジネスを広げています。政治に関して言えば、近代的民主主義が確立しようとしています。市民社会においては、日本以上に市民運動が活発であり、そういった人々が実際に社会制度を変革しています。文化においては、台湾は 14 の原住民族を有しており、さらに日本、韓国などからも文化を吸収し多文化社会として発展を遂げています。これらのことは日本で学んでいてもなかなか実感できないことでしょう。それこそが本プログラムに参加する意義です。もちろん英語や中国語を実際に使う機会としても役に立ちます。

② 参加後の予定
東京大学理学部物理学科に進学予定です。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
これほど充実したプログラムはなかなか無いと思います。これもこのプログラムで学んだことですが、日本企業は海外への展開の足がかりとしてまず台湾に進出するそうです。みなさんも留学の足がかりとして台湾に行ってみてはどうでしょうか？

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
facebook

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。
他の人たちも写っているので判断できません。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 経済学部 / 4 年

参加プログラム: 国立台湾大学・東京大学合同サマープログラム 派遣先大学: 国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業

<p>派遣先大学の概要 国立台湾大学</p>
<p>参加した動機 以前より台湾に興味を持っていたことに加え、9月から長期留学をし国際関係論を学ぶに当たり、台湾や東アジアについての見識を深め、自分なりの意見をもちたいと考えたため。</p>
<p>参加の準備</p> <p>①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 学部の締め切りが思ったより早かったので、細目に掲示板を確認する必要があった。</p> <p>②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは必要なかった。</p> <p>③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。</p> <p>④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) ネットで申し込み可能なので、AIUを利用した。</p> <p>⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になし。</p> <p>⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 長期留学を控えており英語レベルには特に問題を感じていなかった。</p> <p>⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 特に台湾ではおみやげなどを大事にする文化だったので、同じグループの学生におみやげをもって行ってよかった。出発前にできれば、事前学習をして国に対する概要をわかっていたほうがいい。また、挨拶程度の簡単な中国語を覚えていけばよかった(あるいは指さし辞典をもっていけばよかった)</p>
<p>学習・研究について</p> <p>①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 毎日授業一つを受け、一つあるいは二つのフィールドワーク先を訪問した。最終プレゼンテーションがあったので、その後ホテルに戻ってからグループで話し合いなどをした日も多かった。フィールドワークで、台湾の省庁や現地企業を訪問できたのが、とても印象的だった。</p> <p>②学習・研究面でのアドバイス 特に気負うことはないが、自分の興味を持っているもの(専門分野や興味を持って取り組んできたこと)を活かして内容を解釈し、積極的に質問などしていければ、より深く学習できると思う。</p> <p>③語学面での苦勞・アドバイス等 語学面では、現地の学生の多くが日本語を話せたこともあり特に困らなかった。逆に自分がもう少し中国語を勉強してから行けばよかったと思っている。</p>
<p>生活について</p> <p>①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) プログラム全体でまとめて大学近くのホテルが手配されていた。 2人部屋という話だったが、ついてみると1人部屋だった。宿はやや高かったが、清潔で朝ごはんも充実していた。</p> <p>②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 季節もあって2度台風にあい、またそうでない日も急に雨がふりだすことが多かった。折り畳み傘をもってよかった。</p>

交通機関はよく発達していて、事前に教授から購入を進められていた easy card を買って、電車やバスを簡単に利用することができた。交通費はとても安かった。移動の際は基本的に現地の学生といっしょだったので、特に問題なかった。

食事はとてもおいしく、安かった。

お金は予算として提示されていた額をもっていったが、台風によるスケジュール変更や最終プレゼンテーションにむけての話し合いで思ったよりも自由行動の時間が少なかったため、予定の半額くらいしか使わなかった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は非常によかった。夜に女一人で出歩けそうなくらいだった。

無理はしないように心掛けた。油っぽい食事が多いので、時々朝食は果物とパンだけにするなどしていた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券:約7万円。(その後の用事があり、安い航空券をとれなかった)

授業料:なし。

ホテル費用:約7万円。

食費や交通費、娯楽費など:約1万5千円(4万円もっていったが、余った)

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO 6万円 一括して募集された。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

休日が一日あったので、現地の学生に案内してもらって、観光をした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

サポート体制はかなり行き届いていた。

現地学生のほとんどが、英語・日本語ができ、コミュニケーションには全く問題なかった。また、TA(現地参加学生の一人)がとてもよく気遣ってくれた。現地の教授も、無理な願いを聞き入れてくださり、普段はいけないようなところへフィールドワークのアポイントをとってくださった。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

教室しか使っていないが、教室のうち1つはWifiが通じ、もう一つでも現地学生のIDを借りてインターネットを利用することができた。

新公社と旧校舎の両方をつかったが、新校舎はとても広く、旧校舎は趣があつてよかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムを通して、台湾という国について自分なりに勉強し理解することができたと思う。授業やフィールドワークはもちろんだが、現地学生とふれあえたことで、より台湾という国を理解し身近に感じる事ができた。以前は、アジア圏の中でも他の地域により興味を持っていたが、今回のプログラムを通して台湾や中華圏に対する興味が増した。できれば、今後中国語を勉強して、交流した学生たちと中国語で会話できるようになりたいと思う。

また、フィールドワークで現地企業を訪問できたことは貴重な経験になった。普段の講義の中で経済の概念は学んでいたが、实体经济がどうなっているかもしることができ、ビジネスの世界をより身近に感じる事ができた。

②参加後の予定

9月から長期留学が決まっている。イギリスで国際関係論を学ぶ予定である。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加を迷っている方がいたら、ぜひ参加してほしいと思います。現地の学生と交流したり、フィールドワークで普段いけないようなところを訪問して質問をしたりするのは、刺激的な経験になると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

③ その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。